

第5回

「多摩戦国時代の城を学ぶ」

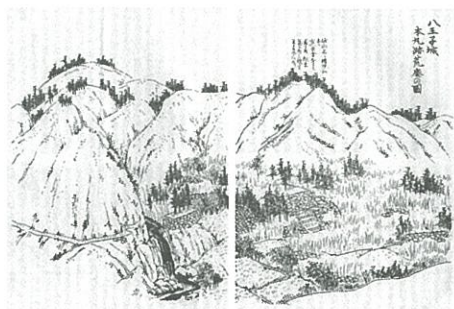
平成13年（2001）

現在、城跡として残る勝沼城（青梅市）、滝山城、八王子城（八王子市）などの城は戦国時代、多摩を支配した三田氏、大石氏、後北条氏の城でした。これら三氏が活躍した時代の背景は、またどんな城を造り、どう暮らしたのか、歴史学、考古学、城郭研究の視点からご解説いただきました。最終講にはバスツアーで実際に城跡をめぐり、理解を深めました。

- | | | | |
|------|----------|---------------------------|----|
| □第1講 | 6月24日(日) | 多摩の戦国時代概観 | 46 |
| | | 講師 加藤 哲（八王子市文化財保護審議会委員） | |
| □第2講 | 7月29日(日) | 三田氏を考える—多摩川上流域の中世的景観— | 47 |
| | | 講師 伊藤 博司（日本考古学協会） | |
| □第3講 | 8月26日(日) | 大石氏、後北条氏の城 | 48 |
| | | 講師 八巻 孝夫（中世城郭研究会） | |
| □第4講 | 9月30日(日) | 出土遺物から考える後北条氏の暮らし | 51 |
| | | 講師 戸井 晴夫（八王子市教育委員会） | |
| | | 戸井 晴夫『史跡八王子城跡御主殿の発掘調査』その後 | |
| □第5講 | 11月4日(日) | バス見学会：戦国期多摩の古城を歩く | 54 |
| | | ～今井城・勝沼城・滝山城・八王子城～ | |
| | | 講師 加藤 哲 | |

定員 70名

場所 多摩交流センター（第5講はバス現地見学会）



八王子城本丸跡荒廃の図（『武蔵名勝図会』慶友社より）

第1講 多摩の戦国時代概観

加藤 哲（八王子市文化財保護審議会委員）

- 1 北条早雲の出自
 - * 多摩の戦国時代の始まり
 - ・ 永享の乱(室町幕府と鎌倉府の対立)
 - * 北条早雲
 - ・ 存命中一度も「北条早雲」とは名乗っていない…伊勢宗瑞、伊勢新九郎、早雲庵宗瑞、伊勢宗瑞
 - ・ 若い頃京都におり禅の修行、幕府に出入りする。備中国江原荘高越山城の伊勢新九郎盛時が、後に堀越公方の家督争いに乗じ伊豆に討ち入り、戦国大名伊勢新九郎宗瑞となったのでは。
- 2 北条氏の関東進出と多摩
 - * 北条改姓をめぐる
 - ・ 関東管領、扇谷・山内両上杉氏の対立に乗じ、伊勢氏が関東に入る。
 - ・ 「他国の凶徒」とされないための、北条への改姓。さらに武蔵進出への正当な論理を構築するために、氏綱は焼失した鶴岡八幡宮の再建を行う。
 - * 北条氏の武蔵進出、大石氏・三田氏らの帰順
 - ・ 川越合戦（天文15年・1546）において山内扇谷両上杉氏敗北、失脚。これにより三田氏・大石氏など多摩の豪族たちが北条氏に帰順
- 3 北条氏照の八王子領支配
 - * 北条氏照が永禄2年頃19歳で滝山城に入り、大石氏の家督を継承する形で多摩地域に入部
 - * 三田氏は氏照支配とは距離を置いた。永禄4年の越後上杉政虎の小田原遠征に際して北条氏に反旗を翻して上杉方に着き、「関東幕注文」にも名を連ねる。その中で氏照に攻略され滅ぼされている。
- 4 統一政権と東国
 - * 天正6年、越後上杉謙信が死去、後継者景勝が武田勝頼と同盟。
 - 北条氏外交の転換、織田信長への接近氏照の使者として間宮若狭守が京都へ赴き、信長に対面。京都・安土城を見学し帰る。
 - 計画中もしくは築城中の八王子城への安土城の影響

第2講 三田氏を考える

—多摩川上流域の中世的景観—

伊藤 博司（日本考古学協会）

1 三田氏の支配領域：^{そまのほ} 柚保

柚保：国府を支える物資を供給する国衙の直接支配地

武州柚保の領域：青梅市、奥多摩町、羽村市、埼玉県寄居。多摩川上流域、山の根を北西方向に三田氏は勢力を持っていた。

2 三田氏の支配していた年代

鎌倉時代から室町時代末期。建長2年（1250）『吾妻鏡』に「三田入道」の名。天文2年（1533）に三田弾正忠政定は上洛も果たしている。永禄4（1561）～6年、後北条氏による辛垣城攻撃で滅ぶ。永禄7年、清戸三番衆として三田氏の名。

3 武州柚保の中世城郭

多摩川北岸の尾根、勝沼城から最後の砦・辛垣城まで一本道でつながれているとも言われている。勝沼城・辛垣城間の尾根の中間に矢倉台（重要な軍事拠点）、その麓に楯の館、このラインが重要。城跡には後北条氏の影響も見られるが、三田氏はこれらの城に、何らかの関係をしたと考えられる。（表参照）

4 中世の屋敷跡の発掘調査

*倭林遺跡（鎌倉期、青梅市今井）
旧石器時代から中世までの複合遺跡。

中世期に属する遺構郡の存在は最も注目され、調査区全体に分布。内訳は方形区画遺構4ヶ所、掘立柱建物跡27棟、溝21条、井戸3基、配石遺構3基、大型竪穴住居状遺構1基、土坑群、柱穴群。区画外の台地先端部に櫓状の建物跡も確認。長さ8m幅2m、深さ2.5mの巨大な陥し穴は城館域の外周防御のためと考えられる（今井城との関連を考える意識が必要）。弘安年後の板碑の出土、龍泉窯の青磁の出土から鎌倉時代に位置づけ。

*裏宿遺跡（室町期、青梅市裏宿・森下）
上層に検出された掘立柱建物群は中世末期のものとして多摩川上流域では数少ない発見例。掘立柱建物と土坑は、主軸方向を東西に持つもの6棟、南北に持つもの2棟、ほぼ方形のもの1棟。特に4間×1間のものが4棟、3間×1間が2棟。埋納銭と土坑出土遺物から15世紀後半から16世紀初頭のものと考えられ。文禄年間以前に居を構えていた地侍田辺土佐某の屋敷地か、来迎寺に関わる屋敷地と考えられる。

参考文献

『多摩のあゆみ』第90号 たましん地域文化財団 1998年

青梅市域の中世城郭

城郭名	所在	位置	標高	規模	構造	調査・発掘	出土遺物	時期	文献	備考
勝沼城 (別称) 師岡城・竜ヶ谷城・城山	東青梅 6丁目	多摩川北岸、加治丘陵、天寧寺南側の舌状台地先端部	210 ~ 218m	東西1500m 南北 500m	本丸に相当する曲輪を中心に2つの曲輪と、堀、土塁、堀切、馬出、発掘により建物跡と思われる柱穴群が存在	1970年 I郭北西部：建物跡 I郭南東部：堀・土塁	青白磁-12・瀬戸系-2・常滑系-8・土師質土器-132・銭-1(永楽)・板碑-3	15世紀後半~16世紀後半	1・2 3・4 5・6 7・8	三田氏 後北条氏 師岡氏
楯の城 (別称) 館・宮平館・田辺氏館・楯沢城・楯の柵	日向和田 1丁目	多摩川北岸、矢倉台の南尾根先端部台地、青梅街道も屈曲する自然の要害	220 ~ 240m	東西 100m 南北 200m	台地を中心に、虎口、空堀土橋、横矢が存在する。 発掘により堀切・土橋・土塁が確認された。	1977年 主郭北部90㎡：堀切・土橋・土塁	船載青磁-1・瀬戸系-3・常滑系-1・土師質土器-6・硯-1・磁石-1・鉄滓	16世紀~17世紀	2・4 5・6 7・8 9	三田氏 後北条氏 田辺氏
藤橋城	藤橋 159番地	加治丘陵南側、颯川南岸の段丘先端	164 ~ 166m	東西 100m 南北 200m	高さ約1.5m土塁に囲まれた本郭曲輪(南北55m・東西45m)、土橋、虎口、物見台等が配置	1964年 掘立建物跡・土橋(虎口)等検出	瀬戸系-6・その他の陶器-1・山茶碗系-1・常滑-55・土師質土器-1	15世紀後半~16世紀後半	2・3 4・6 7・8	平山氏 藤橋氏
今井城	今井 1丁目	加治丘陵南側、颯川沿いの舌状台地上	163 ~ 165m	東西 120m 南北 90m	主郭南北等に3つの掘りと、曲輪を3つ配置し、土塁、虎口、土橋などが設けられている 発掘は曲輪1中央	1967年 掘立建物跡・火葬場・地下室・箱堀・土橋	龍-5・瀬戸-11・常滑系-31・土師質土器-112・硯-2・磁石-5・水碓-2・灰-1・銭-60・銅-54・磁石-1・板碑	①14世紀~ ②15世紀後半~16世紀後半	1・2 4・5 6・7 8	今井氏 後北条氏
辛垣城 (別称) 西城	二俣尾 4丁目	多摩川北岸、雷電尾根の稜線上で辛垣山の山頂付近	430 ~ 457m	東西 150m 南北 200m	山頂付近の曲輪を中心とした4つの尾根沿いに、虎口堀切、曲輪などが配置されている	1969年	不明	~16世紀後半	1・2 3・4 6・7 8	三田氏
樹形山城 (別称) 城山	二俣尾 樹形山	多摩川北岸、雷電山南側の支尾根上	360 ~ 376m	東西 40m 南北 180m	山頂付近の曲輪を中心に南北に、堀切、整掘5つ曲輪が配置されている				1・2 3・6 7・8	後北条氏 神田氏?
矢倉台	日向和田 矢倉台	楯の城北側、雷電尾根ピークに位置する三角形の平地	365 ~ 383m	東西 13m 南北 13m	今回、矢倉台北側に、堀切などの遺構が確認された。				1・6 7・8 9	三田氏 後北条氏

凡例

1…『新編武蔵風土記稿』、2…『武蔵名勝図会』、3…『武蔵野歴史地理』、4…『皇国地誌・西多摩郡村誌』、5…『青梅市の板碑』
6…『資料青梅市の中世城郭跡』、7…『青梅市史』、8…『青梅地方における中世城郭』、9…『青梅郷土史』

平成13年8月26日 午後1時30分~3時30分

第3講 大石氏、後北条氏の城

八巻 孝夫 (中世城郭研究会)

1 多摩の中世城郭

*多摩の城は「土の城」→極限まで発達
→関西の「石垣」への強い志向

*度重なる改修

高月城…大石氏築城-後北条氏改修

滝山城…大石氏築城-後北条氏改修

2 大石氏と後北条氏

*大石氏

・信濃出身、南北朝期に関東へ

・山内上杉氏の被官として活躍

・大永元年(1521)高月城→滝山城

・天文15年(1546)河越合戦で上杉方が敗北

・永禄2年(1559)北条氏に屈服。氏照を養子

*後北条氏

・本姓は伊勢氏、備中出身…(家永遵

嗣氏説)

- ・今川氏親の家督相続を助け興国寺城城主
- ・伊豆を足掛かりに五代で関東を制圧
- ・永禄12年(1569)武田信玄侵入。その後滝山城を改修か?
- ・天正15年(1587)ごろ、北条氏照八王子城へ移転

3 高月城(八王子市高月町)

- *長禄2年(1458)以降、大石氏築城
永禄2年(1559)北条氏照改修か?

*特徴

- ・秋川が多摩川と合流する手前の舌状台地
- ・素朴な縄張り
→馬出(うまだし)の設置

↑

後北条氏の改修…(例)片倉城

4 滝山城(八王子市丹木町)

- *大永元年(1521)大石氏築城
永禄2年(1559)北条氏照入城、以後大規模に改修

*特徴

- ・秋川・多摩川合流点でもあり渡河点
- ・東国の中世城郭の頂点ともいふべき複雑な縄張り
- ・巨大な横堀で囲繞



滝山城

- ・内城部の虎口三か所に馬出を設置

↓

特別な空間化

- ・本丸には石敷きの枡形虎口
…権威の表現

5 八王子城(八王子市元八王子)

- *天正15年(1587)ごろ築城、移転か?

*特徴

- ・甲武国境の守り、城下町経営
- ・ライン防御重視の縄張り→後北条氏の縄張りの最終形態(次頁縄張り図参照)
- ・木橋、石垣、枡形虎口、礎石建物など視覚重視
- ・未完の城か?→山上に虎口がない
- ・「詰の丸」とはなにか?
→最前線の曲輪



八王子城の様相

平成13年9月30日 午後1時30分～3時30分

第4講 出土遺物から考える後北条氏のくらし

戸井 晴夫（八王子市教育委員会）



八王子城（撮影：柵國男氏）

1 八王子城の歴史

滝山城の虎口を発掘調査した際、敷石が山積みになって通行不能にしてあった。

→完全に滝山城は廃城。その段階で未完成とはいえども完成に近い形で八王子城が存在していたといえる。

2 八王子城跡の構造

*昭和26年、国の史跡に指定

*面積154万㎡

*要害地区、居館地区、根小屋地区、御霊谷地区、太鼓曲輪地区

3 御主殿の発掘調査

*御主殿の平地は自然のものではなく、大々的に工事の結果。

*ほとんどが礎石建物だが掘立柱建物もいくつか見つかっている。

*御主殿北側は落城後、早い時期に崩れ、一気に埋まっている。

4 発見された遺構

建物址8、通路・道路8、溝1、土坑3、庭園

*大型建物址SB01：6間×10間。南側に石敷遺構。宴などを行う会所か。北側に玉砂利（厚さ3.4 cm）敷きの施設。礎石からは単純な間取りと推測。庭園の石は山からとれるもの。庭が眺められる構造

*落城時の火災による柱跡の焼け残り
→柱の形態、大きさが判明



御主殿発掘調査全景（八王子市教育委員会編『八王子城跡御主殿』より転載）

5 発見された遺物からみた当時の生活

*4年近い接合作業、出土した陶器片はほとんど接合できた→落城時にどれほどの器があったのかを復元

*青花皿はほとんど景德鎮産、白磁皿は中国南方系のもの

*白は大量に出土、割れたものが敷石・石垣に使われている。伊奈石と呼ばれる多摩産の石材を使用。上白・下白両

方とも出ているが上下しっかり合致するものはわかっていない。

〈日常生活用具類〉

食器 = 碗 (漆器・白磁碗 4 個体)、皿 (かわらけ 511・灰釉皿 102・鉄釉皿 114・白磁 233・青花皿 1143・青磁皿 20)、大皿 22、箸 1

貯蔵容器 = 壺 28、小壺 3、甕 13、鉄釉甕 1、大甕 5

酒器 = 杯 (鉄釉杯 6・青花杯 19、白磁杯 30)、青白磁梅瓶 1 瓶 (鉄釉德利 21)、李朝瓶 3

台所用品 = 播鉢 43、焙烙 10、石臼 18/8、鍋 7、包丁 1、蓋 2、釜 3、砥石 27

灯火器 = 火打金 10、灯明皿 (かわらけ 20?・鉄釉 2)

暖房具 = 手焙り 2、火入れ 1、温石 1

文房具 = 硯 14、水注 4

〈武器・武具類〉

武器 = 弾 (鉄 453・銅 34)、刀 1 鏃 16

武具 = 札 36、甲冑飾り金具 11

生産用具 = 弾の鋳型 14 埴塙 3

〈趣味・嗜好品類〉

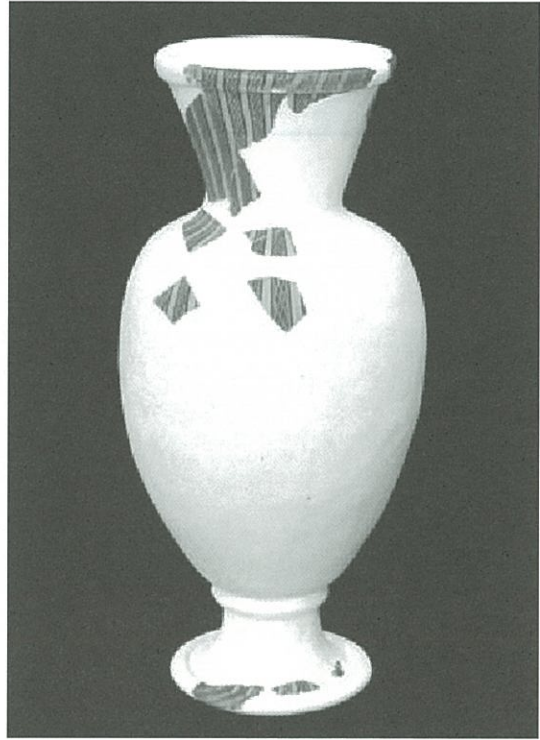
茶道具 = 碗 (天目碗 62・青磁碗 2・瑠璃碗 10・青花碗 24)、茶入 22、水指 1、建水 1、風炉 5、花生 (掛花 1・壺形 1・砧形 1)、茶壺 1、茶臼 3/11 …62 個体ある天目碗の中はかなりはげしく傷が付いているものが半分以上確認。臨戦態勢に入った際、乳鉢的な使われたかをされたのではないか。

香道具 = 香炉 2

調度品 = 壺 2、五彩皿 (雲鶴 10、玉取獅子 10)、五彩大皿 1、ガラス器 (レースガラス) 1 …ガラス器はイタリア・ベネチア産、仙台・大阪でもベネチ

アガラスは出土しているが、レースガラスは八王子のみ。

遊戯具 = 碁石 1



レースガラスの復元 (八王子市教育委員会編『八王子城跡御主殿』より転載)

〈その他〉

壁土 1892、釘 9606、鋸 6、銭貨 1579、半鐘 18、貝殻 (ハマグリ 30、アカニシ 16、サザエ 5)、炭化穀物 (米 7.3・大麦 58.3・小麦 8・粟 2.8・大豆 1.9・小豆 2) …壁土が建物の周りにきれいに残っていた。土壁の厚さは 2 センチほど。釘がかなり大量に使われている。屋根に瓦は葺かれていない。

参考文献

『八王子城跡御主殿—八王子城跡 X III 八王子城跡御主殿発掘調査報告書一』(CD-ROM) 八王子市教育委員会 2002年

「史跡八王子城跡御主殿の発掘調査」、その後

戸井 晴夫（八王子市郷土資料館学芸員）

多摩の歴史講座第5回第4講で史跡八王子城跡御主殿の発掘調査について報告してから6年余の月日が流れた。当時はまだ整理作業も完了しておらず、遺構や遺物に関して十分な紹介をすることができなかった。その後、平成14（2002）年3月に、どうにか報告書を刊行することができた。通常埋蔵文化財の発掘調査報告書は発行部数も少なく、一般に販売することもないのが現状であるが、八王子城跡の場合、史跡であることと、整備事業を目的とした学術調査であることから、一般の市民の方にも活用していただこうと考え、1,000部作成することとした。しかし、総ページ数約800ページ、写真や遺物分布図はカラー印刷となると、1冊の販売価格が高価になってしまうことから、CD-ROM化を提案した。市では、今までこのような形で報告書を出版した経験がなく、当初は懸念する意見も多かった。当時は、報告書に付録のような形でフロッピー・ディスクやCD-ROMが添付されることはあったが、CD-ROMのみの報告書というのはわずかであった。しかし、21世紀を迎え、パーソナル・コンピュータの普及も進んだことや、なにより安価に供給できることから、CD-ROMのみの出版を決定した（八王子市教育委員会 2002）。発売当初は、市民にもとまどいがあったようであるが、現在は問題なく購入され、在庫は100部余となっている（2007年8月現在）。なお、郷土資料館の閲覧コーナーには出力したものを製本して供している。

さて、この調査は史跡八王子城跡の環境整備事業に伴う御主殿の発掘調査で、この結果を基に御主殿の環境整備を実施する予定であった。しかし、御主殿自体が従来考えられていた範囲よりかなり拡大することが判明したり、市の予算自体が厳しい状況下にあたりしたため、整備は先送りとなって現在に至っている。

しかし、市では、平成14年から15年にかけて現況測量図を作成、住民意識調査を実施し、平成16年には史跡八王子城跡保存管理計画策定委員会を設置した。これを基に、平成17年に「国指定史跡 八王子城跡保存管理計画書－過去と未来の調和を－」を発行し、計画策定の基本的な考え方の他、史跡を生かした地域づくり、地域内及び広域的な史跡ネットワークの推進、計画的な情報発信といった将来に向けた長期的計画の理念を示した（八王子市 八王子市教育委員会 2005）。

さらに、平成19（2007）年4月、財団法人日本城郭協会が創立40周年を記念して「日本100名城」を選定し、東京都からは江戸城と八王子城が選ばれた。これに伴って市外からも見学者が多数訪れることとなり、市ではパンフレットを作成したり、駐車場を設置したりしている。

今後は、広範囲にわたる試掘調査や御主殿の再調査を実施することによって、さまざまなことが明らかになってくると考えられ、さらには出土資料の展示施設の建設なども考慮した整備計画を実施していく予定である。

平成13年11月4日 午前9時30分～午後5時

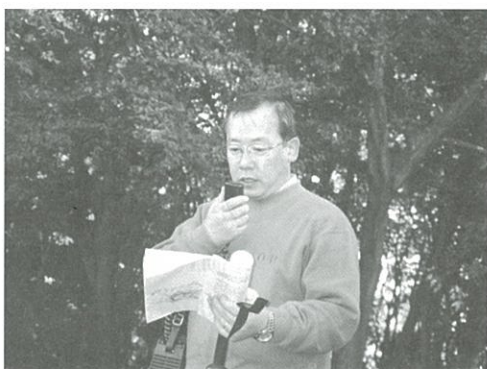
第5講 バス見学会：戦国期多摩の古城を歩く

～今井城・勝沼城・滝山城・八王子城～

加藤 哲（八王子市文化財保護審議会委員）

第5講は、実際に多摩の中世の城跡をめぐる、バス見学会になりました。行程は下記です。
青梅線羽村駅東口→今井城跡→勝沼城跡→塩船観音寺→滝山城跡→八王子城跡→中央線高尾駅

第5回



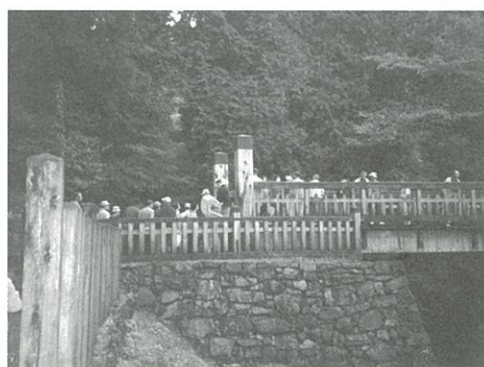
講師・加藤哲先生



勝沼城



滝山城の堀を見学



八王子城